



○ 生きる力

「教育方法論」にお邪魔しました。私が参観したときは、「生きる力を育成するための学習指導と生徒指導」の部分でした。

私はこの3月までまさにこのことを実践していた(つもり)わけですが。本当に子どもたちに力をつけることができたのか、振り返ってみると反省点ばかりが思い浮かんできます。冷や汗も出ます。「ゆとり教育」を推進していた時代は、そのことは大切な内容・考え方であると思っていました。今は批判されている部分もありますが、その時代があったからこそ教育の本質が見えてきたという面もあると思います。

内容から離れますが、講義を受けながら、専門学校の2年間というのは本当に短いなと(まだひと月しか経っていませんが)感じていました。卒業時に幼稚園教諭免許も取得できる本校のカリキュラムは自慢できますが、その分学生はやや忙しくなります。通信制短大へのレポート提出などがありますので苦勞しているようです。ただこれまでも記述しましたが、若者には空き容量がたくさんあるので大丈夫でしょう。鍛えられる分だけ力がついていきます。がんばれ!

さて、講義の件です。岡村先生はワークシートを作成して学生に配り、教科書の内容をうまくまとめたものを伝えていました。どこが大切で、ポイントは何なのかということがよく分かる仕掛けです。また、レポートが書きやすくなるような工夫もなされています。教科書を最初から一行ずつ読んでいってその都度解説を付け加えていくというような、昔ながらの一斉授業だったら、時間も足りなくなるだろうし、学生たちは多くが“寝ている”と思います。しかしこの時間にそのような学生はいません。また、疑問に思ったことを学生たちはよく“つぶやき”ます。同じ疑問をもっている学生には大助かりですね。「私語」と学習内容に関する「つぶやき」は大違いですね。

講義の最中に私の経験談を伝えたくりましたが、時間をとってしまいそうなので遠慮しました。

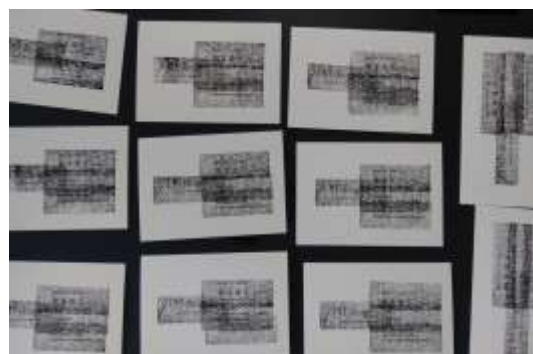


自校自費 (前号のつづき)

前回の作品に私がつけた題名は「TUKING II 2017」です。いかがでしょうか?

使われた素材等 = 古い名刺をメモ用紙として再利用するため、名前等の情報を隠そうとランダムな数字等を文字に重ねて印刷したものです。インクが乾くまで、空いていた机に並べたという状況です。

右パターン of “作品” もありました。



※「KOCHO だより」の紙印刷は白黒で行っています。

カラー判は本校のホームページをご覧ください。

「TUKING V 2017」